

学校沿革誌の編纂と資料的性格

Compilation and Character of “The history of a school”

学籍番号：201121732

氏名：林原 久恵

Hisae HYASHIHARA

学校沿革誌とは各学校によって編纂される学校の歴史や変遷を記した資料である。小学校では明治時代初期から編纂されており、永年保存文書として保存されてきた。しかし、辞典類による定義は確認できなく、先行研究においても一地域における編纂経緯や個別の学校沿革誌に対する検討になる。さらに、記載事項や様式は区々であり内容は多岐に渡っている。そのため、全国的な編纂経緯や資料的性格は不明確である。

したがって、本研究の目的は、関係する法規定や学校沿革誌の実態の検討を通じて、学校沿革誌の全国的な編纂経緯や目的、その資料的性格を明らかにすることである。また、それによって現在の学校沿革誌における保存管理経緯及び位置付けを検討し、学校沿革誌の再評価を試みることである。

そのため、関係する法規定の規定内容や通達状況からその編纂経緯、目的を分析した。しかし、地域によって規定状況は様々であり、多くの地域では編纂指示の令達が見られず設備表簿の規定により設備を義務付けていた。さらに、郡や市独自の規定、学校独自の動きが先進した事例もあった。よって、学校沿革誌は必ずしも令達の規定により編纂されてはいなく、地域或いは学校の独自の働きによって編纂されたものだったことが明らかになった。編纂目的については、各校の歴史の後世への伝達が共通してみられ、時代によって「徴考証拠」或いは資料自体としての重要性が見出されていた。学校沿革誌は現在においても規定が設けられ、編纂が続けられている。

また、学校沿革誌の原本調査からその実態や編纂者側の意識等について検討するとともに、規定上と実際の記載における学校沿革誌を比較検討した。学校沿革誌は必要性が意識され、主体的に編纂が行われていた。成立年代と記載状況から編纂後においても加筆が続けられていたことも多かった。規定と記載状況の分析からは、当該学校に属した人々、学校の成り立ち、運営の実績等といった事項が主に編纂されたことが明らかになった。つまり、そうした事項が後世に残すべき事項として考えられていたのである。地域と密接に関わり合ってきた歴史を記す学校沿革誌は、地域の歴史・教育・文化を伝える資料となる。学校沿革誌の持つ根本的な資料的性格はそこに帰結すると考えられる。

研究指導教員：白井 哲哉

副研究指導教員：綿坂 豊昭